

Title	明治二十年七月二十九日附 福澤一太郎宛福澤諭吉書翰
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1956
Jtitle	史学 Vol.29, No.1 (1956. 5) ,p.112- 112
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19560500-0112">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19560500-0112</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

英國帝國主義下に於ける占度民族の覺醒

久本省二君

ジャクソニアンデモクラシーの成立とその背景

椎木輝實君

アメリカ資本主義に於ける南部プランテーション

堀越惇生君

モンロー主義について

山本榮一君

フィリッピン獨立問題に關する一考察

大坪大學君

——主として十九世紀末の特異性——

錢谷 功君

門戶開放に於けるジョン・ヘイ

——特に内外購買力について——

花井幹治君

アメリカ金融寡頭制に於けるJ・S・モルガンの地位

佐藤博美君

アメリカ人民黨の成立要因

柳坪 進君

英米新聞に現れた封建時代の日本人觀

——幕末遺外使節を中心として——

小林雅子君

明治二十年七月二十九日附

福澤一太郎宛福澤諭吉書翰(未發表)

日本は大暑之時節ニ相成日々苦熱其地は如何今年はボーストン

江參るとハ先便ニ捨より申來候暑中之休課ニ至極宜敷事と存候

今便も貴様ハ手紙を贈らず或は氣分あしき杯之義ニは無之哉様

子承り度候

捨次郎之手紙ニ抛れバドクトルヨシハンス氏ハ隨分六ヶ敷事を申すよし是れハ致方なき次第なれとも自分ニ不平を呑んで人之言

ニ服するニも不及事之利益と判斷出來候ハハ、颯々と獨斷ニ行ひ可申遊學中俗事ニ心配するより損なるハなし決して他人ニ氣兼ねする

ニ不及正しく自己之路を行き可然存候

ドクトルシモンズ氏ハ當月初より北堂と共ニ日光ニ在り昨今一寸出京今日も宅へ止宿致居候米國公使夫人ハ過日日光ニ而死去醫

師ハ重もニドクトルシモンズ氏なり誠ニ氣之毒之事ニ候

桃介ハさなた虫の長きもの出たるよし是れニ而根治と存候

留守宅ニ御者あり金之助と云ふ宇都宮近傍之者なり此者の祖母ハ當年百二藏ニ相成今尙屆強之よしニ付先日金之助を日光ヘドク

トル之見舞ニ遣したる序ニ祖母をも尋問致させ其節衣類など遣し甚々悦ひたるよし隨分長命之人もあるものと存候

本塾ハいよいよ、當秋より數學語學之專門課を設る積り新聞紙之

方も殊之外忙しく來年ならば貴様方兩人も一度ひ歸國其上ハ拙

者を補助して少しハ閑ニ可相成と夫れのみ樂しみ居候拙者も養生

ハ怠らず相待候貴様も同様よく運動して屆強偉大なる身體を父母ニ見せ候様心掛ケ度事ニ候

右相替義も無之候得共平安之一信如此候也

二十年七月二十九日

一太郎殿

論 吉